

## 「旅の不思議、書物の不思議」を開催しました。

平成28年11月20日(日)午後1時30分～4時 成城ホールにて

今回の講演会は、講師に作家・沢木耕太郎さんをお迎えして、2部構成で行いました。

### 第1部 子ども読書リーダー（子ども司書）による発表

子ども読書リーダーとは、夏休みに調べ学習やおはなし会を行う講座を受講し、今でも図書館のおはなし会などで活躍している子どもたちです。今回は、梅丘図書館と玉川台図書館の子どもたちが発表しました。

最初は梅丘図書館で活動する小学5年生3人の発表。蔵王のちょう<昔話> バナナの叩き売り口上<大道芸> 堀の内<落語>を一人ずつ行い、さいご3人で ぶす<狂言>を行いました。終始会場から笑い声があがっていました。



次は玉川台図書館で活動する4人の発表。「おいしい気持ちを味わう」をテーマに、絵本の読み聞かせや朗読をしました。

絵本の読み聞かせは『ぐりとぐら』（福音館書店）。絵本を読むだけでなく、読み終わったあとに、絵本で登場したカステラの実物を見せて、観客を驚かせました。そのあと、第2部で講演する沢木耕太郎氏の著作『深夜特急 第一便』（新潮社）より、ソフトクリームを食べているシーンの朗読を行い、さいごに、それぞれのオススメの本を紹介しました。



『ぐりとぐら』発表の様子

子どもたちは、緊張しながらも堂々と発表を行っていました。参加者からのアンケートからも、「話に引き込まれる話し方で上手でした。」「子供の朗読は、とてもホッとしました。いやされました！」などの感想をいただきました。もし、活動している子ども読書リーダーを見かけたら、温かい目で見守っていただけたらと思います。

### 第2部 沢木耕太郎さん講演「旅の不思議、書物の不思議」

最初は、第1部で『深夜特急』の朗読をした流れから、執筆にいたったきっかけや、ドラマ化で出会った俳優さんの話をされました。ほかにも、2016年8月まで朝日新聞にて連載していた『春に散る』についてのおはなしもありました。

また、中学生のときに父親からもらった本に影響を受けたと、『何でも見てやろう』（小田実著）と『斜陽』（太宰治著）を紹介され、本のもたらす影響の強さや魅力をつたえていただきました。

旅の魅力や本との出会いのすばらしさを感じる素敵な講演会 ユーモアをまじえておはなしする沢木さんでした。



アンケートからは、「本が与える影響の強さを知った。子供が大きくなったら本を贈りたいと思った。」「旅へといざなう本のことや旅の様子を様々なエピソードをちりばめながら、楽しく話して下さった。」などの感想をいただきました。当日は、約260人の方にお越しいただき、盛況の中終了しました。沢木さんに書いていただいたサイン色紙を、中央図書館1階“情報コーナー”付近に飾っています。立ち寄った際には、ぜひ見てみてください。